

乃木邸の佇まい

東京を散策していると名所旧跡、大手有名企業等の建物に出会うことがある。港区の巨艦を思わせる六本木ヒルズや、整備された庭と贅沢な余裕の空間を楽しめる東京ミッドタウンの複合施設。そして歌にも出てくる六本木の楽しい街並み。そんな中で古いレンガ造りのこじんまりした建物を見つけた。

それは旧乃木邸（東京都港区指定文化財・有形文化財）であった。乃木希典大将夫婦の住居として1902（明治35）年から1912（大正元）年9月13日の明治天皇御大葬の日に、明治天皇に従って殉死するまで住んでいた館であった。

乃木希典とは「乃木将軍」また「乃木大将」の呼称で有名な明治時代の軍人である。長府藩（長州藩の支藩）の出身で吉田松陰に心服し叔父玉置文之助の塾に学ぶ。ドイツ留学。日清戦争では第1旅団長（少将）として旅順口を占領。その後に中将となり台湾総督に就任。更に日露戦争では大将として難攻不落と言われた旅順攻略に参戦。激戦の末陥落させたが多くの死者を出す結果に。その中に2子も含まれており、悲劇の将軍として国民的敬愛を集めた。

乃木邸はドイツ留学中に見たフランス軍の建物を模して建てられたもので、軍人らしく飾り気のない簡素で合理的なものであった。道沿いに見えるレンガ造りの建物は自宅より立派で馬丁室と馬糧庫に馬4頭が収納でき、いかに馬を大切にしていたかがうかがえる。撮影2013年春

